

学年：2年	単元名：1. グラフとひょう ーわかりやすく あらわそう
-------	---------------------------------

1. 単元目標：(全3時間)

○簡単な表やグラフについて理解し、データを整理する観点を定め、簡単な表やグラフを通じて特徴を捉え、考察する力を養うとともに、表やグラフを用いて数学的に表現・処理したことを振り返り、日常生活に活用しようとする態度を養う。
考判表・観点を決め分類整理する方法を考える。 ・表された表やグラフを考察し、その「よさ」を考える。
知・技・身の回りにある数量を分類整理してグラフや表に表したり、それらを読み取ったりすることができる。 ・分類整理した数量をグラフや表を用いて表すことのよさについて理解する。

2. 指導内容

・

3. 指導のポイント

○表やグラフのかき方は、徹底指導し、習熟をはかる。 ・落ちや重なりがないようにするには、どんな工夫をしたらよいか子どもたちに考えさせる。 ・絵グラフ→○を使ったグラフ→ぼうグラフ(3年)に発展させる。
○表やグラフの「よさ」がわかる指導。 「表やグラフを見てどんなことがわかりますか？」 「いろいろなことがわかりますね。」 ↓ ※特に全体の傾向とかそれぞれの比較ができるよさをおさえたい。 ↓ 目的(何を知りたいか)をもって表やグラフをかくということを知る。 目的によって、表やグラフは、変わる。 Ex. 「すきなきゅう食の人数を知るために」
○表やグラフを見て、作問をさせる。 ・文章に書かせる指導も考えられるが、口頭で発表させていくのもよい。 ・いろいろな問題が作れることを実感させたい。
○表やグラフは、数値だけを読み取るのではなく、どうしてそうなっているのか理由も考え、そこから見えてくる今後の対策を話し合ったりすることが大切である。

4. 指導にあたって

①子どもたちにどんな見方や考え方を獲得させたいか。

②それを通してどんな子どもに育てたいか。

5. 学習展開

第1時

学習のめあて（作業・知る・考える）
○落ちや重なりがないように表やグラフにかき、それぞれの良さを考えよう。（P8/9）

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
<p>1. 問題把握</p> <p>T:クラス全員でしたい遊びをわかりやすく表します。1つの方法は、グラフと言います。もう1つの方法は、表と言います。</p> <p>したい遊びをわかりやすく表すグラフと表のかき方を教えます。それぞれをかいてそれぞれのよさを考えよう。</p> <p>グラフや表をかいて、よさを見つけよう。</p>	<p>・用語「グラフ」「表」</p> <p>・グラフや表をかく目的をはっきりさせる。</p> <p>みんなでしたいあそびの多い少ないを表す。</p>
<p>2. 自力解決・学びあい</p> <p>○グラフをかく。（項目を決め、人数を○でかく。）</p> <p>※落ちや重なりがないようにするためには、どうすればよいか考えながらかいていく。</p> <p>・ 1. 順番にかいていく。</p> <p>2. かいたものは、消していく。 など</p> <p>○グラフを見て、それを表にかく。（項目は同じ。数をかく。）</p> <p>T:かけましたね。それぞれどんなところがいいですか。</p> <p>C:グラフは、○が人数を表しているの、どこが多いかすぐにわかる。</p> <p>C:表は、数がすぐわかる。</p>	
<p>3. まとめ・ふりかえり</p> <p>何を知りたいかを決めて、グラフや表をかく。</p> <p>グラフは、どこが多いかすぐわかり、表は数がすぐわかる。</p> <p>落ちや重なりがないようにうまく数えなくてはいけない。</p>	

※普通は、「表→グラフ」であるが、ここは、「グラフ→表」である。

※資料の数が少ないので、指導者が「読み上げる」という方法も考えられる。

第2時

学習のめあて（作業・知る・考える）
○表やグラフを見て、どんなことがわかるか考えよう。（P10）

- 表やグラフを見てわかることを見つける。
 - ・数値を読む
 - ・なぜ多いのか、なぜ少ないのかを考える。
- クラスみんなが、もっと仲良くなるためには、どうすればよいか考える。

第3時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○2つのグラフをくらべよう。(P11)

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
<p>1. 問題把握</p> <p>T: 雨がふった時のことも考えて、もう1回聞きました。その結果をグラフに表しました。 1回目から2回目で人数がへった遊びは、何ですか。その他にどんなちがいがありますか。</p> <p>C: 班でWBにかいて、黒板に貼りだして発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>人数がへった遊びは、「おにごっこ」 ドッジボール：2人ふえていて、いちばん多い。 なわとび：同じ おにごっこ：大きくへっている。4人 フルーツバスケット：少し増えている。1人 いすとりゲーム：少し増えている。1人</p> </div> <p>T: いろいろなちがいがわかりましたね。 では、なぜそんなちがいが出たのでしょうか。理由を考えましょう。それから、したい遊びをえらびましょう。またその理由を考えましょう。</p>	
<p>2. 自力解決・学びあい</p> <p>①ちがいが出た理由。 ②したい遊びとその理由</p>	<p>・班で話し合ってWBにまとめる。</p>
<p>3. まとめ・ふりかえり</p> <p>T: ①については、みんな同じですね。雨のことを考えたからです。 ②については、班によっていろいろ出てきました。どのように考えるかで、えらぶ遊びもかわるということです。えらんだ理由がしっかりしているとどれも正しいということが言えます。</p> <p>T: では、自分ならどの遊びを選ぶか。またその理由をノートにかきましょう。</p>	